

# 13年前、原発はまっぴらごめんだと考えた



# 79年前、もう戦争はこりこりだと思った

## 「自由と人権」は大軍拡と原発再稼働に反対します

「自由と人権」は公民館登録団体です。基本的人権や市民的自由について考え、行動しています。

東大和市立中央公民館を拠点に不定期の集まりを行っています。

集会のテーマは自由です。関心のある方は下記までご連絡ください。

電話：090-1884-5757（榎本） メール：eno-takanosu1737@bbm-a.jp

ホームページ：<http://www.bbm-a.jp/~eno-takanosu1737/jiyu/index.htm>（QRコード参照）

自由と人権

liberty & human rights



(2024年版)

# 戦争ごりごり、原発まっぴらごめん党宣言

79年前、わたしたちの前世代の人たちは、生活全面にわたる軍事統制と強制措置、軍国主義日本によるアジア・太平洋諸国侵略の結果として受けた軍事侵攻と空襲により、多くのいのちを失い、生きのこった人たちも凄惨な生活を強いられました。1945年の敗戦による戦争終結によっていのちの保障と自由を取り戻し、もう戦争はごりごりだと心の底から思ったと言います。

日本による侵略戦争によって海外では2000万人以上もの人々が亡くなり、日本人も国内外を含め300万以上の命が失われています。かろうじて戦争を生き延びた人々は、「戦争は二度とするものではない」「戦争は絶対にダメだ」と誰しもが口にします。

そして13年前、今度はわたしたち自身が、東日本大震災を引き金とした福島第一原発事故により核被曝とその恐怖を味わうこととなりました。1979年のスリーマイル島原発事故、1986年のチェルノブイリ原発事故があったにもかかわらずです。これを教訓とせず、「安全神話」にどっぴりとつかっていただけだという指摘がなされています。

膨大な数の人々が住み慣れたふるさとを追われ、原発事故関連死として命を失った人々も少なくはありません。13年後の現在までも住みなれた故郷に戻れない人も多く、放射線被曝の影響と不安は次世代までも引き継がれています。こんなことは二度と起こしてはならない、原発はまっぴらごめんだとわたしたち自身が強く決意したものです。

ところが敗戦から79年、原発事故からはわずか13年で、わたしたち自身や先人たちの後悔と反省を忘れたかのごとく、この国の政策は逆行し、さらにその速度を高めようとしています。

中国・朝鮮を敵視した政策のもとで、軍事費を5年間で2倍にし、他国攻撃を可能とする軍備を保有し、攻撃用兵器の輸出さえ可能にしようとしているのです。平和憲法を持ち、軍隊を持たない、戦争をしないと誓った日本においてあり得ない事態です。沖縄諸島は地元の強い反対にもかかわらずミサイル基地とされ、戦争前夜という様相です。

原発にいたっては、最長運転期間の延長まで強行し、GX（グリーントランスフォーメーション）などという偽装宣伝によって原発再稼働、新增設が政策的に押し進められています。原発立地の自治体の不安や反対には、交付金というカネの力でこれを抑え込んでいるのが実情です。地震大国日本には原発立地の適地などひとつもありません。そもそも原発は核被曝を前提とし、使用済み核燃料の最終処理さえ見通しがなく、人類との共存は不可能です。

原発も軍備拡大も、利益を得るのは建設・運営に携わる大企業と電力会社や軍需産業、そしてこれに連なる利権集団です。いっぽう庶民には、軍拡による増税、電気料金値上げです。そして、いったん原発事故や戦争になれば、いちばんに被害を受けるのはわたしたち庶民です。

わたしたちは戦争によりいのちを奪われることも、いのちを奪うことも、拒否します。たとえ国が負けても、生き残る道を選びます。不当な支配に対する抵抗は生きていてこそできるのです。いのちがいちばん大事です。

仮に生活が不便であったとしても、原発なんかいいりません。核被曝の恐怖におびえるより不便を選びます。あることが当たり前になってしまったスマホやウォシュレットなどをはじめとする快適な暮らしを、わたしたち自身もいちど見直してみる必要があります。ましてリニア新幹線など無用の長物、まっぴらごめん、電力浪費の犯罪的代物です。

原爆は世界から廃絶しなければなりません。原爆も原発も根っこはいっしょです。原爆は原発以上にあってはならないものです。原発も原爆も戦争も、無いほうがみんな幸せになれます。ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマ、自然災害ではありません。みんな人間がもたらしたものです。人間がなくせないはずはないのです。

(2024.3.11 自由と人権)